

運動が「好き」「楽しい」「得意」になる教育の推進 ～幼・保・小・中を貫く体力の向上への挑戦～

岐阜県多治見市教育委員会

取組時の課題と目的

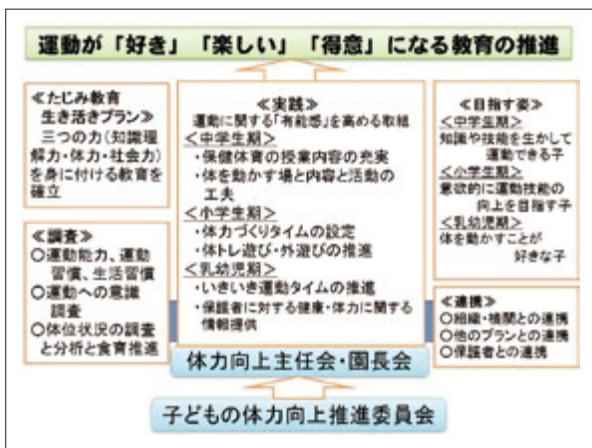
Plan

1 取組時の課題

平成23年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果において、本市の児童生徒が全国平均を上回った種目は中学校のわずか4種目のみであった（小中男女計34種目中）。そこで、外部有識者を含む「子どもの体力向上推進委員会」を設置し、幼児児童生徒が有用性を実感しながら体力・運動能力を高めるための取組を推進することとした。

2 取組の目的

- ①平成24年度より実施している「子どもの健康・体力づくりたじみプラン」に基づいた取組を推進する。



プランの概要(平成29年度版)

- ②新体力テストなどの結果を踏まえ、各園・学校がPDCAサイクルに基づく体力の向上の取組を継続できるようにする。

取組の内容

Do

1 子どもの体力向上推進委員会の設置

外部有識者、幼保小中教員、市関係課で構成する委員会を年3回開催し、プランの進捗管理及び評価を行う。

2 体力アッププランの作成

各園・学校で、副園長や体力向上主任（市独自の校務分掌）を中心に「体力アッププラン」を作成し、発達の段階に応じた運動の実践を行う。また、年度末には報告書を作成し、それぞれの取組の評価を提出する。

(1) 幼稚園・保育所の取組

- ①体力テストを3種目（立ち幅跳び、ボール投げ、握

力）実施する。市の集計結果から実態を把握するとともに、遊びの環境づくりや支援に生かしている。

- ②市教委から貸し出す活動量計を活用し、親子で運動する時間を増やす取組を行い、保護者への啓発を図っている園もある。

- ③楽しく遊ぶことを通して体力の向上を図る「いきいき運動あそび」の時間を設定している。多様な動きを引き出す場の設定の工夫、個人の意欲や変容の評価など、どの子ども楽しく運動できるように配慮している。



玉入れゲームの手づくり教材

- ④市主催の研修会では、小中学校の体育科教員が講師となり、幼稚園・保育所の教諭・保育者が運動や遊びの研修を受ける機会を設けている。また、県レクリエーション協会専門指導員を講師に招き、園児への指導方法などを学ぶ「運動あそび部会」を定期的に開催している。

(2) 小学校の取組

- ①朝に運動の時間を確保したり、学級遊びを奨励したりしている。A小学校は、新体力テストの結果から瞬発力や握力に課題があると分析し、テンポに合わせて運動する「リズムジャンプサーキット」を考案した。
- ②新体力テストの結果は市で全児童分の個票を作成し、運動の目当てづくりに活用している。

- ③水泳となわ跳びについて市の統一基準「たじみ技能スタンダード」を作成し、各校で活用している。水泳では、4級（クロール50m、平泳ぎ50m）以上に市の認定証を授与している。なわ跳びでは、キャラクターである“うながっぱ”のスタンプを作製・配付し、合格印にしている。



(3) 中学校の取組

- ①保健体育の授業を改善するとともに、生徒会主催の「レクリエーション大会」などで運動に親しむ機会を設けている。
- ②小中学校ともに県教委主催の「チャレンジスポーツ in ぎふ」への参加を奨励している。

3年2回の体力測定の実施

小中学校では新体力テストを年2回実施している。2回目は1回目の調査結果をもとに3種目程度を選択して実施し、取組の成果を検証している。結果は市で集計し、成果を確認する。

4 体力向上主任研修会の開催

小中学校合同の体力向上主任研修会において各種データの分析や各校の取組について情報交換し、工夫・改善を図っている。

5 運動・遊びアイデア集の作成

平成29年度には、体力向上主任研修会が執筆した「運動が『好き』『楽しい』たじっこ運動・遊び（アイデア集）」を製本し、全ての園・学校に配付した。教職員が指導に役立てたり、子供が手に取って遊びを選んだりできるようにしている。また、自分たちで考えた遊びを書き記すページも設定している。

ステップアップ方式で、子供自身が難易度を上げたり選択したりできる

どの子ども親しめるように、行い方の「こっ」や「つぼ」を示している

アイデア集(抜粋)

6 運動に関する児童の意識調査の実施

平成28年度には、岐阜大学、名古屋学院大学と連携して「運動に関する児童の意識調査」を行い、体力・運動能力の向上とともに児童が運動の有用性を実感できているかを調査した（中学校は平成31年度実施予定）。

7 体トレ通信の発行

これらの取組や結果などについて年3回発行する「体トレ通信」を通じて保護者に伝え、啓発を図っている。

意識調査の結果を知らせる「体トレ通信」(抜粋)

→ 工夫したこと

①幼稚園・保育所における取組

平成23年度の調査から「投力」に注目していたところ、「投げ方」にも課題があることが分かった。そこで、副園長会において「足形マット」を作製し、遊びながら投げ方を身に付けられるようにするなどの取組をしている。そうした園の取組の成果は、小学校低学年における新体力テストの結果に表れている。

また、同集団の経年変化を分析し、各園・学校の体力アッププランに反映できるようにしている。さらに、小中学校の結果を幼稚園・保育所にも提供し、取組の成果を互いに共有できるようにしている。

②関係機関との連携

関係のある市の各課（文化スポーツ課、子ども支援課、保健センターなど）と連携・協力し、生涯を通じて運動に親しむ資質・能力の育成を図っている。



学生ボランティアと児童

小学校の新体力テストには、大学生ボランティアを活用している。手本を見せたり一緒に活動したりすることで、児童の意欲付けや正確な調査の実施につながっている。

取組成果の評価



平成29年度の調査では、小中学校合わせて18種目で全国平均を上回るなど、体力・運動能力について全国と同等かそれ以上の結果を得られるようになった。

また、平成29年度に実施した全児童対象の意識調査では、高学年児童の約8割から「運動は必要だと思う」という回答を得た。低学年では、「運動が得意・やや得意である」と回答する児童が8割を超え、幼児期からの取組の成果が表れている。

今後の課題



意識調査の結果では「好き・楽しい」という回答が約6割にとどまり、まだ目指すところには到達していない。平成31年度に予定している中学校の調査において、同集団の変容を分析し、取組の成果を検証する。

本市はこれまで生活習慣と学習習慣の改善にも取り組んできた。平成30年度からは、「習慣づくり」という観点から推進委員会を統合して取り組んでいる。また、大学と連携し、「子どもの家庭環境と運動・スポーツ活動に関する調査」などについて調査・研究を進めている。